

発生予察情報

特殊報第1号

平成13年10月18日
秋田県病虫害防除所

シルバーリーフコナジラミ(旧称：タバココナジラミ)の初確認について

平成13年9月下旬に秋田市内のガラス温室で種が不明のコナジラミ類の発生が確認され、秋田県農業試験場が同定した結果、これまで本県で発生が確認されていなかったシルバーリーフコナジラミと同定された。

1. 病虫害名 シルバーリーフコナジラミ (*Bemisia argentifolii* BELLOWS and PERRING)

2. 発生した作物 洋ラン類

3. 形態および生態

シルバーリーフコナジラミの蛹は長さ0.8～1.0mm、幅0.6～0.8mmの楕円形で、後端がやや細まる。全体は淡黄色で、外縁は滑らかに見え、背面はわずかに隆起しており、数本の対をなした長い刺毛がある(写真-1)。オンシツコナジラミと比較すると体色は濃く、刺毛状の分泌物が少ない。

成虫は体色が淡黄色で白色の翅を持ち、体長は0.8mm程度である(写真-2)。オンシツコナジラミと比較すると体色は濃く、やや小型である。シルバーリーフコナジラミは、葉面に静止していると翅先が重ならないが、オンシツコナジラミは翅先が重なり合っているため区別できる。

卵、幼虫(1齢～3齢)、蛹(4齢幼虫)を経て成虫となる。

低温に弱く、5℃程度でも孵化率が低下するため秋田県では野外や無加温施設での越冬は困難と考えられる。

4. 被害の状況

本種の寄生範囲は極めて広く、ポインセチア、ペチュニア、サルビア、ケイトウ、ナスタチューム、アスター、パンジー、ダイズ、ナス、トマト、メロン、カボチャ、ホウレンソウ、セルリー、ミツバ、パセリ、イチゴ、キャベツ、ブロッコリー、レタスなどがある。

シルバーリーフコナジラミによる被害には、成幼虫の吸汁害による生育阻害、成幼虫の分泌物に発生するすす病による葉、果実の汚れ及び光合成阻害、各種作物に発生する退緑色、白化などの異常症を起こす。

5. 防除対策

- 1) 既発生地から苗を導入するにあたっては本種を持ち込まないよう厳重に注意する。
- 2) 幼虫寄生の多い葉や栽培終了後の残さの処分等を行う。
- 3) ハウスやガラス室の開口部には寒冷紗を張り、成虫の侵入を防ぐ。
- 4) 花き類で本種に登録のある薬剤はポインセチアに限られるが(表-1)、他の作物では作目登録のある薬剤で同時防除を行うことにより薬剤防除が可能である(表-2)。

表－１ 花き類で、本種に登録のある作物と薬剤の一覧

作物	農薬名称	希釈倍数 使用量	使用 回数
ポ イン セ チ ア	アドマイヤーフロアブル	2000倍	5回
	アブロードエースフロアブル	1000倍	6回
	アブロード水和剤(対象:幼虫)	1000倍	6回
	サンマイルフロアブル	1000倍	2回
	トレボン乳剤	1000倍	6回
	トレボンVPくん煙剤	40g/200m ³	5回
	ノーモルト乳剤	2000倍	2回
	ブルースカイAL	原液	5回
	モレスタン水和剤	1000倍	
	ラノーテープ	25～100m ² /10a	1回
	ラノー乳剤	1000～2000倍	4回

表－２ 花き類で、本種に登録は無いが、他の病害虫と同時防除可能な作物と薬剤の一覧

作物	農薬名称
カーネーション	トレボン乳剤、モレスタン水和剤、粘着くん液剤、テルスター水和剤、サンマイルフロアブル
ガーベラ	モスピラン水溶剤、カスケード乳剤
きく	モスピランジェット、モスピラン水溶剤、アドマイヤーフロアブル、ブイボン乳剤、トレボン乳剤、トレボンEW、モレスタン水和剤、粘着くん液剤、ベストガード水溶剤、テルスター水和剤、サンマイルフロアブル、スミロディー乳剤、カスケード乳剤
シュツコン カスミソウ	モスピラン水溶剤、トレボン乳剤、トレボンEW、アタプロン乳剤、ノーモルト乳剤、カスケード乳剤
スターチス	カスケード乳剤
ストック	ノーモルト乳剤
トルコギキョウ	モスピランジェット、トレボン乳剤
バーベナ	モレスタン水和剤
ばら	モスピランジェット、モスピラン水溶剤、アドマイヤーフロアブル、モレスタン水和剤、粘着くん液剤、ベストガード水溶剤、テルスター水和剤、カスケード乳剤
ゆり	アドマイヤーフロアブル、トレボン乳剤、ベストガード水溶剤
リンドウ	アドマイヤーフロアブル、トレボン乳剤、ノーモルト乳剤

7. 参考資料



写真－１ シルバーリーフコナジラミの蛹



写真－２ シルバーリーフコナジラミの成虫



写真－３ オンシツコナジラミの蛹



写真－４ オンシツコナジラミの成虫

【問い合わせ先】

秋田県病害虫防除所 018-860-3420

秋田県農業試験場 018-881-3326